

中期目標の達成状況に関する評価結果

(中期目標期間終了時評価)

鹿屋体育大学

令和5年3月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
-------	---

(法人の達成状況報告書から転載)

評価結果

《概要》	3
------	---

《本文》	4
------	---

《判定結果一覧表》	18
-----------	----

－《本文》における特記事項の冒頭「○」「●」について－

○：第3期中期目標期間4年目終了時評価において抽出されている特記事項※

●：第3期中期目標期間終了時評価において、4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化として、追加で抽出されている特記事項

※ 新型コロナウイルス感染症下における対応については、4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化の有無にかかわらず、令和2、3年度における取組や実績等を更新している。

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

～スポーツで未来を拓く自分を創る～

国立大学法人鹿屋体育大学は、全国でただ一つの国立の体育系大学という特性を十分に活かし、健全な身体と調和・共生の精神を併せ持つ人材の育成に必要不可欠なスポーツ・身体運動を通じて、創造性とバイタリティに富む有為の人材を輩出するとともに、体育・スポーツ学分野における学術・文化の発展と国民の健康増進に貢献し、もって健全で明るく活力に満ちた社会の形成に寄与する。

1. 教育に関する目標

学部：スポーツ・健康・武道分野における研究成果に基づいた教育を通じて、国民のスポーツ、健康及び武道を適切に指導し得る専門的知識、実践力・実技力や指導力を有し、広くは国際社会で活躍できる有為な人材を養成する。

大学院：国民のニーズに応じた適切なスポーツ・身体運動の指導やマネジメント及びプログラム開発、トップアスリートに対する科学的なトレーニングの指導やメニュー開発ができる能力を備えた高度専門職業人として、国内及び国際社会で活躍できる中核的な役割を担う人材を養成する。

2. 研究に関する目標

スポーツ・健康・武道分野におけるこれまでの研究実績を生かし、新たな研究領域としてグローバルなスポーツイノベーション研究拠点の構築を目指す。

また、スポーツ活動や指導の実践知に関する「スポーツパフォーマンス研究」との取り組みとも連携し、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピック大会での活躍を目指す本学学生をはじめ、国内のトップアスリートの競技力向上につながる科学的サポートを実施する。

さらに、本学の基礎的・応用的・実践的領域での研究を組織的・学際的・総合的に推進する支援体制の整備・充実に取り組む。

3. 社会貢献に関する目標

教育研究の成果を積極的に広く情報発信するとともに、開かれた大学として生涯学習の機会を提供し、教育研究資源の開放を行うとともに、社会との多様な連携を推進し、スポーツ・身体運動による健康づくりとスポーツ・武道文化の振興・発展に貢献する。

4. グローバル化に関する目標

オリンピック・パラリンピック教育や日本のスポーツ・武道文化教育及びスポーツ実践やスポーツ医科学研究を通じて、アジア地域をはじめ海外の若手研究者やコーチと本学学生・教員との積極的な交流を推進するための、グローバルな教育研究拠点を形成する。

[個性の伸長に向けた取組 (★)]

- スポーツを適切に指導し得る専門的知識、実践力・実技力や指導力を有した人材育成を継続的に安定して行うために、今まで評価方法が確立されていなかった実践的なスポーツ指導力やマネジメント力などのスポーツ指導者として求められる基礎的な能力を測定するプロフィール型テスト「スポーツ指導者基礎力テスト (SCCOT)」を開発し、本学学生や他大学で体育学を専攻する学生に対して実施している。
(関連する中期計画 1-1-1-3)
- スポーツ科学に特化した本学の研究施設・設備とこれまでに蓄積した研究データを活かし、「Top Athlete Support System(TASS)プロジェクト」や「Promotion of Active Life Style(PALS)プロジェクト」等の本学独自の研究プロジェクトを推進するとともに、それらの研究成果を社会に還元している。
(関連する中期計画 2-1-1-2、2-1-1-3、3-1-3-1)
- 学部生の92%が体育系課外活動団体に所属し体育系課外活動が活発でスポーツ資源(人材、施設等)が豊富であるという本学の特性を活かし、大学スポーツを地域活性化につなげる文化モデルの確立を目指して2017年度に日本版NCAA「KANOKAモデル」事業(2019年度からはBlue Winds事業)を始動し、地域密着スポーツブランドの創設やスポーツを「する」「みる」「ささえる」イベントの開催などに取り組んでいる。
(関連する中期計画 3-1-1-1)
- 本学の特徴であるアジアにおけるネットワークを活かし、国際スポーツ・アカデミー形成支援事業として、アジア各国・地域の若手研究者や指導者に対し、グローバルに活躍できる人材の育成を行っている。また、オリンピック・パラリンピアンを招聘した特別講演会や公開講座などの東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた気運醸成イベントを開催している。さらにこれらの事業に学生を従事させることにより、広い視野や国際感覚を育てている。
(関連する中期計画 4-1-1-2、4-1-1-3)

[戦略性が高く意欲的な目標・計画 (◆)]

- グローバルなスポーツ研究イノベーション拠点の形成を目指して、スポーツパフォーマンス研究センターを活用し、スポーツ医科学・情報工学分野と連携・融合したさまざまな研究プロジェクトを実施する。
(関連する中期計画 2-1-1-1)
- 総合型地域スポーツクラブをはじめとする地域スポーツの多様なプラットフォームにおいて、健康の維持増進を目指した様々なスポーツ活動等に関する支援を行う。
また、地域における健康の維持増進、生活習慣病予防等に関する研究をPromotion of Active Life Style (PALS)プロジェクト等により実施するとともに、地方自治体等と連携して普及に努めてきた貯筋運動を国内だけでなく、海外で実施するグローバル貯筋研究プロジェクトとして推進する。
(関連する中期計画 2-1-1-3)
- 大学のグローバル化に向けた教育研究を発展的に取り組むため、文部科学省補助事業である国際スポーツ・アカデミー形成支援事業などを活用し、主にアジアの若手指導者や研究者を育成するとともに、教職員及び学生のグローバル化に繋がる環境を整備する。
(関連する中期計画 4-1-1-2)

評価結果

《概要》

第3期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、鹿屋体育大学の中期目標（大項目、中項目及び小項目）の達成状況の概要は、以下のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）		判定	中期目標（小項目）判定の分布				
中期目標（中項目）			【５】 特筆すべき実績を 上げている	【４】 優れた実績を 上げている	【３】 達成して いる	【２】 十分に達 成してい るとはい えない	【１】 達成して いない
Ⅰ 教育に関する目標		【３】 達成している					
１ 教育内容及び教育の成果等に関する目標		【３】 達成している		1	6		
２ 教育の実施体制等に関する目標		【３】 達成している			4		
３ 学生への支援に関する目標		【３】 達成している			2		
４ 入学者選抜に関する目標		【３】 達成している			1		
Ⅱ 研究に関する目標		【４】 上回る成果が 得られている					
１ 研究水準及び研究の成果等に関する目標		【４】 上回る成果が 得られている		1			
２ 研究実施体制等に関する目標		【３】 達成している			1		
Ⅲ 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標		【３】 達成している					
		なし			3		
Ⅳ グローバル化に関する目標		【３】 達成している					
		なし			1		

※ 大項目「I 教育に関する目標」及び「II 研究に関する目標」においては、4年目終了時に実施した学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を反映している。

《本文》

I 教育に関する目標（大項目 1）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

（判断理由）「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）4 項目のうち、4 項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1）教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目 1-1）

【評価結果】 中期目標を達成している

（判断理由）「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）7 項目のうち、1 項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」、6 項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-1-1	判定		判断理由
【学士課程】 国民のスポーツ・健康を適切に指導し得る知識、スポーツ・健康・武道に関する実践力・実技力や指導力を有する人材を養成するために、体系的な教育課程を編成し、実施する。	【4】	中期目標を達成し、優れた実績を上げている	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 ・ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「SCCOT の開発と実施」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
		《特記事項》	
		（優れた点） ○ 学修成果の可視化 カリキュラムマップ及び「体育学部のディプロマ・ポリシーで目指す12の資質・能力と授業科目との関係一覧表」を作成し、各授業科目で修得する資質・能力を明示している。また、12の資質・能力ごとに関連する授業科目の成績評価	

	における GPA を算出することで、学修成果として可視化できるようになり、学生自身が身につけるべき能力の把握が可能となっている。(中期計画 1-1-1-1) ○ SCCOT の開発と実施 実践的なスポーツ指導力やマネジメント力などのスポーツ指導者として求められる基礎的な能力を可視化するプロフィール型テスト「スポーツ指導者基礎力テスト (SCCOT)」を企業と共同で開発しており、令和元年度末時点で学内外の学生等約 2,300 名に対して実施している。(中期計画 1-1-1-3)		
小項目 1-1-2	判定		判断理由
【学士課程】 学生の主体的な学修の確立に向け、学士課程教育の質的転換に取り組む。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ アクティブ・ラーニングの推進 学生の主体的な学修に向けてアクティブ・ラーニング (AL) の授業科目への導入を 100%にするため、学生からの授業評価の高い授業科目及び AL を活用した授業科目の授業参観を実施するなど、AL の推進を行っており、授業科目への AL の導入率は平成 30 年度に 100%を達成している。(中期計画 1-1-2-1) ○ シラバスの記載充実 平成 30 年度からシラバスに予習・復習・レポート等の授業時間外学習の内容や時間を明記するとともに、教育課程全体及び授業科目ごとに修得すべきミニマムな学修課題 (ミニマム・エッセンシャル) を作成し、主体的な学修の方向付けに取り組んでいる。その結果、令和元年度の授業時間外学習時間は平成 28 年度と比較して 1.4 時間/週増加している。 (中期計画 1-1-2-1)		

小項目 1-1-3	判定		判断理由
【学士課程】 厳格な成績評価や卒業認定を行う。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	該当なし		
小項目 1-1-4	判定		判断理由
【学士課程】 主体的な学修へと繋げるように学修の成果の把握・評価を推進する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ NIFSpass による学修の振り返り促進 平成 29 年度に学生が毎学期の学修成果を確認・反省するための学修ポートフォリオシステム (NIFSpass) を整備し、平成 30 年度から運用を開始している。授業科目群ごとの GPA 及び「スポーツ指導者基礎力テスト (SCCOT)」を用いたスポーツ指導者としての基礎的能力の評価結果等について、グラフ等により可視化し、所属の平均と自己のデータを比較して確認できるようにしている。また、学びの目標及び学修成果を可視化する意義や効果について解説するパンフレット『鹿屋体育大学での 4 年間で充実する秘密の書』を作成し全学生に配付しており、学びの PDCA サイクルを周知することで学生に学修の振り返り・改善を促している。その結果、令和元年度の授業時間外学習時間は平成 28 年度と比較して 1.4 時間/週増加している。(中期計画 1-1-4-1)		

小項目 1-1-5	判定		判断理由
【大学院課程】 国民のニーズに応じた適切なスポーツ指導やプログラム開発及びマネジメント、トップアスリートに対する科学的なトレーニング指導やメニュー開発ができる能力を備えた高度専門職業人として中核的な役割を担う人材を養成するために、体系的な教育課程を編成し、実施する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	該当なし		
小項目 1-1-6	判定		判断理由
【大学院課程】 新たな社会の創造・成長のために、国内外の大学等と連携し、スポーツ・健康に関する事業や研究プロジェクト等を通しての国際的な貢献や大学体育及び大学スポーツを先導し実践的研究の推進を図ることができる人材を養成する体系的な教育課程を編成し、実施する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 大学院教育の進展 平成 28 年度に筑波大学及び日本スポーツ振興センターと連携した修士課程スポーツ国際開発学共同専攻、及び筑波大学と連携した 3 年制博士課程大学体育スポーツ高度化共同専攻を設置し、国際的な人材養成に取り組んでいる。また、博士後期課程体育学専攻の「体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム」について、平成 29 年度に宮崎大学と連携・協力に関する協定を、令和元年度に熊本大学とこれまでの博士後期課程体育学専攻に加え、修士課程体育学専攻まで拡大した連携・協力に関する協定を締結しており、大学院教育の充実を図っている。(中期計画 1-1-6-1)		

小項目 1-1-7	判定		判断理由
【大学院課程】 大学院教育の「可視化」を進め、多様なキャリアパスを確立する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 大学院生へのキャリア支援 産業界と連携したインターンシップや地域社会等と連携したフィールドワーク等を通じて理論と実践を結びつける機会を提供するために、平成 30 年度から修士課程に「コープ特講演習・実習」、博士後期課程に「コープ特殊研究・実習」の授業科目を新設し、大学院生のキャリアパス形成を支援している。(中期計画 1-1-7-1)		

(2) 教育の実施体制等に関する目標 (中項目 1-2)

【評価結果】 中期目標を達成している (判断理由)「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標(小項目)4項目のうち、4項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。
--

小項目 1-2-1	判定		判断理由
全学的な教学マネジメントを確立する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
		《特記事項》	
	該当なし		

小項目 1-2-2	判定		判断理由
学生の主体的な学修を確立するため、教育環境を整備する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 新型コロナウイルス感染症下の教育 体育大学という特性を踏まえ、新型コロナウイルス感染症による影響下においても、実技・実習科目の対面授業による実施のため、手指の消毒等の感染対策の徹底、オリエンテーションの動画配信及び少人数グループでの実施等の工夫を行っている。また、実技の授業においては、タブレット端末を活用し、対面授業時に撮影したフォーム等の映像をオンライン授業時に振り返り、次回の対面授業時にフィードバックする取組も行っている。		
小項目 1-2-3	判定		判断理由
学生の主体的な学修を確立するため、教員の教育能力及び指導能力等を向上させる。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	該当なし		
小項目 1-2-4	判定		判断理由
連携大学院を含め、各教員の役割分担と連携体制を明確にし、有機的・組織的な大学院教育・研究体制を確立する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	該当なし		

(3) 学生への支援に関する目標 (中項目 1-3)

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 2 項目のうち、2 項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-3-1	判定		判断理由
キャリア支援も含め、学習支援に対する学生のニーズを把握し、支援体制を総合的に整備する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 就職率向上への支援 平成 29 年度からキャリア・コンサルタント有資格者を採用して、就職相談に対応しているほか、キャリア・コンサルタントを講師に招いた就職塾 (年 2 回) や全学年を対象とした就職ガイダンス (年 2 回) 等を開催している。また、就職活動経験のある大学院生・学部上級生 (キャリアサポーター) による支援体制を整備しており、令和元年度には、授業や就職ガイダンス、就職塾において、就職の内定を得た学生による講話や座談会等に 50 名の学生が従事している。その結果、令和元年度における体育学部の就職率は 100%となっている。(中期計画 1-3-1-1)		
小項目 1-3-2	判定		判断理由
学生自身が、心身ともに健全で安全な学生生活を送ることができる良好な修学環境を整備する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 学生への経済的支援の充実 平成 28 年度から学生を教育的配慮の下に学内の業務に従事させ、学生の職業観、勤労観を涵養するとともに学生の経済的支援を行うことを目的とする学内ワークスタディを実施		

	し、令和元年度には 19 名（581 時間）の学生を雇用している。また、平成 29 年度に鹿屋体育大学修学支援基金を設置し、令和元年度には大学院生 4 名に対し入学料半額免除を実施している。修学支援基金により支援を拡充したことで、令和元年度は学業成績や経済状況等の基準を満たした申請者全員に対し、大学院の入学料半額免除を実施している。（中期計画 1-3-2-2）
--	---

（４）入学者選抜に関する目標（中項目 1-4）

【評価結果】 中期目標を達成している

（判断理由）「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標（小項目）が 1 項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 1-4-1	判定		判断理由
大学入学者選抜改革に対応し、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を点検し、入学希望者の能力・意欲・適性等に関し、多面的・総合的な評価を行えるようにする。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	該当なし		

Ⅱ 研究に関する目標（大項目 2）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

（判断理由）「研究に関する目標」に係る中期目標（中項目）2 項目のうち、1 項目が「中期目標を上回る成果が得られている」、1 項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（研究）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1）研究水準及び研究の成果等に関する目標（中項目 2-1）

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

（判断理由）「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）が 1 項目であり、当該小項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 2-1-1	判定		判断理由
体育・スポーツ・武道及び健康に関する独創的、先端的、総合的な学術研究を進め、学際領域における実践的な研究を推進する。	【4】	中期目標を達成し、優れた実績を上げている	- 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 - また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「優れた施設と経験を活かした TASS の実施」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
	《特記事項》		
	（優れた点） ○ 優れた施設と経験を活かした TASS の実施 充実したスポーツ研究施設・設備と、これまで蓄積した体育・スポーツにおける実践知を活かし、トップアスリートの育成・強化を目指した「Top Athlete Support System（TASS）プロジェクト」を実施している。特に、スプリント走に関する研究において、50m 長走路フォースプレートやモ		

	ーションキャプチャシステム等で取得したデータを即時にフィードバックできるシステムを開発し、スプリント走のデータベースを活用した様々な研究を行っている。その結果、平成 29 年度以降、査読付きの国際誌において 30 編以上の研究論文が掲載され、被引用数は計 230 回以上となっている。 (中期計画 2-1-1-2) (特色ある点) ○ グローバル貯筋研究の展開 地方自治体等と連携し普及を図ってきた「貯筋運動」を、国内だけでなく海外でもグローバル貯筋研究プロジェクトとして推進しており、中国、韓国、台湾、タイ、ドイツの 5 つの国・地域において、国際交流協定校等と連携し、貯筋運動の介入研究等を平成 26 年度から平成 30 年度にかけて実施している。その結果、研究成果を学術論文として 11 件公表している。(中期計画 2-1-1-3)
--	--

(2) 研究実施体制等に関する目標 (中項目 2-2)

【評価結果】 中期目標を達成している (判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が 1 項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。
--

小項目 2-2-1	判定		判断理由
研究活動の質の向上と活性化のための体制を整備する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	該当なし		

Ⅲ 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標(大項目 3)

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目) 3 項目のうち、3 項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

小項目 3-1-1	判定		判断理由
地域への多様な学習機会の提供等により、生涯学習の普及や地域の活性化に貢献する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ KANOYA モデルの立ち上げ スポーツ庁委託事業「日本版 NCAA (全米大学体育協会) 創設事業」として「KANOYA モデル」事業を立ち上げ、地域密着スポーツブランド Blue Winds 創設、市民参加型運動会「かのやエンジョイスports」や大学スポーツを観戦・応援する市民向けイベント「カレッジスポーツデイ」の開催等の取組を行っている。その結果、大学の施設利用・訪問者数が増加しており、令和元年度は 80,591 名に上り、平成 28 年度と比較して約 69% 増加している。(中期計画 3-1-1-1) ○ 地域への多様な学習機会の提供 地域のニーズや自治体の要請に応え、地域への多様な学習機会の提供の場として、小中学生を対象とした競技力向上につながる公開講座、中高齢者を対象とした健康増進のための公開講座及びオリンピック・パラリンピズムの普及のためのオリンピック・パラリンピック関連の公開講座等を年間 15 講座以上開設しており、平成 28 年度から令和元年度にかけて、計 2,914 名(年度平均 729 名)が参加している。(中期計画 3-1-1-1) ○ NIFS スポーツクラブへの支援 大学を基盤とする総合型地域スポーツクラブ NPO 法人 NIFS スポーツクラブの定期活動に対して、平成 28 年度から		

	令和元年度の毎年度、指導者・指導補助者として教員 8 名から 11 名、学生約 80 名を派遣し、スポーツ施設を貸与するなど、継続的な支援を行っている。(中期計画 3-1-1-2)		
小項目 3-1-2	判定		判断理由
産学官連携等の事業を積極的に展開し、地域産業の活性化に貢献する。また、地方創生に繋がる科学技術イノベーションを創出する仕組みを構築する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 共同研究・受託研究の推進 企業や自治体等への広報活動として、産学官連携用パンフレットを作成しているほか、東京で開催されるスポーツ・健康産業総合展示会 SPORTEC への毎年度の出展、「イノベーション・ジャパン 2019—大学見本市」や「新技術説明会」等の展示会への出展・参加等行っており、共同研究や受託研究等につなげている。また、教員の持つシーズについて、鹿児島県内の支援団体の協力により、県内企業とのつながりを模索している。これらの取組の結果、共同研究・受託研究の受入件数は、平成 28 年度から令和元年度に、14 件から 26 件に増加し、事業成果として、スポーツウェアやアプリ、体操、機能性食品の共同開発を行っている。(中期計画 3-1-2-1)		
小項目 3-1-3	判定		判断理由
生涯スポーツの普及・振興、人々のアクティブライフスタイルの形成及び競技力の向上等に寄与するため、体育学に関する研究成果を社会へ還元する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ PALS プロジェクトの展開 運動による健康の保持増進に関する研究を実施する「Promotion of Active Life Style (PALS) プロジェクト」の 1 つとして実施している「離島在住高齢者を対象とした持続性の家庭型・地域型運動教室とその効果」に関する研究プロジェクトでは、高齢者を対象とした家庭型運動と定期的な		

	運動介入により機能的体力の向上が見られ、鹿児島県の離島在住者の健康増進に寄与するとともに、地元新聞に取り上げられるなど社会的関心も集めている。(中期計画 3-1-3-1)
--	---

Ⅳ グローバル化に関する目標（大項目 4）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

（判断理由）「グローバル化に関する目標」に係る中期目標（小項目）が 1 項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

小項目 4-1-1	判定		判断理由
国際交流や連携事業を通して大学のグローバル化を推進し、グローバルに活躍できる人材の養成を行う。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	（特色ある点） ○ 外国人研究者・留学生の受入れ推進 外国人研究者及び留学生の受入れを推進しており、平成 27 年度 12 名（研究者 0 名、留学生 12 名）に対し、令和 2、3 年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和 2 年度は 9 名（研究者 1 名、留学生 8 名）、令和 3 年度は 11 名（研究者 1 名、留学生 10 名）となったものの、令和元年度は 28 名（研究者 16 名、留学生 12 名）と約 2.3 倍に増加していた。（中期計画 4-1-1-1） ○ 国際スポーツ・アカデミー形成支援事業 国際スポーツ・アカデミー（NIFISA）形成支援事業として、NIFISA セミナー（年 2 回程度）、国際スポーツ・アカデミーシンポジウム及び国際カンファレンスを開催し、アジア各国・地域から集まった若手研究者や指導者に対して、オリンピック及びスポーツの思想や歴史、医学や生理学の研究や教育に関する講義を実施しており、平成 28 年度から令和元年度にかけて、38 の国と地域から 103 名の若手研究者や指導者が参加している。また、この事業には鹿屋体育大学の学生もボランティアとして参加しており、アジア各国の参加者と関わることで、アジアにおけるネットワークの拡大や学生の国際感覚の醸成を図っている。（中期計画 4-1-1-2）		

《判定結果一覧表》

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)					
中期目標(小項目)					
中期計画					
大項目1 教育に関する目標		【3】	達成している	3.16 うち現況分析結果加算点 0.12	【3】
中項目1-1 教育内容及び教育の成果等に関する目標		【3】	達成している	3.14	【3】
小項目1-1-1 【学士課程】 国民のスポーツ・健康を適切に指導し得る知識、スポーツ・健康・武道に関する実践力・実技力や指導力を有する人材を養成するために、体系的な教育課程を編成し、実施する。		【4】	優れた実績を上げている	2.67	【4】
中期計画1-1-1-1 教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)及び学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と各授業科目との整合性を学生の授業理解度・満足度等により確認し、明確にするとともに、体育・スポーツ学分野の教育の質保証における参照基準や難易度等を手がかりに授業科目等を精選・配置する。		【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画1-1-1-2 教養教育においては、獲得した知識等を新たな課題に適用し、課題を解決する能力(汎用的能力)が高められるかを外部の評価テスト等を活用して点検、評価する。		【2】	実施している		【2】
中期計画1-1-1-3(★) 専門教育においては、実践的な指導力やマネジメント力が高められるように、スポーツ指導実習を柱とした教育効果の評価方法等を開発して点検、評価する。		【3】	優れた実績を上げている		【3】
小項目1-1-2 【学士課程】 学生の主体的な学修の確立に向け、学士課程教育の質的転換に取り組む。		【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画1-1-2-1 学生の主体的な学修を確保するため、能動的学習(アクティブ・ラーニング)等を取り入れた授業科目を平成31年度までに全体の100%にする。また、学生の事前準備・授業受講・事後展開を通した主体的な学修に要する学修総時間を確保・増加する。さらに、教育課程全体及び授業科目毎に修得すべきミニマムな学修課題を明確にして学生に周知し、主体的な学修の方向付けを支援する。		【2】	実施している		【2】
小項目1-1-3 【学士課程】 厳格な成績評価や卒業認定を行う。		【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画1-1-3-1 授業科目毎の達成目標の水準と成績評価基準との関連を教育課程全体で統一化することについて、平成30年度までに検討し、平成31年度までに運用する。また、履修科目の成績の平均値(GPA)を活用した履修指導(履修登録数の制限等)を検討し、平成30年度までに運用する。		【2】	実施している		【2】
小項目1-1-4 【学士課程】 主体的な学修へと繋げるように学修の成果の把握・評価を推進する。		【3】	達成している	3.00	【3】
中期計画1-1-4-1 授業科目群毎にGPA評価や可視化された汎用的能力及び実践的指導力を学生へフィードバックし、学修の振り返り及び改善へと繋げる。小クラス指導体制の充実・強化により、学生の学修の振り返り・改善のポートフォリオシートの提出率を全体の70%以上とする。		【3】	優れた実績を上げている		【3】

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値※	(参考)4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)					
中期目標(小項目)					
中期計画					
	小項目1-1-5 【大学院課程】 国民のニーズに応じた適切なスポーツ指導やプログラム開発及びマネジメント、トップアスリートに対する科学的なトレーニング指導やメニュー開発ができる能力を備えた高度専門職業人として中核的な役割を担う人材を養成するために、体系的な教育課程を編成し、実施する。	【3】	達成している	2.00	【3】
	中期計画1-1-5-1 カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーとコースワークスや研究指導等との関係・役割を体系的に明確にするとともに、授業科目等を精選する。さらに、学部教育から大学院教育まで一貫した視点での教育課程の編成等になっているかを学生の授業理解度・満足度より確認し、改善する。	【2】	実施している		【2】
	小項目1-1-6 【大学院課程】 新たな社会の創造・成長のために、国内外の大学等と連携し、スポーツ・健康に関する事業や研究プロジェクト等を通しての国際的な貢献や大学体育及び大学スポーツを先導し実践的研究の推進を図ることができる人材を養成する体系的な教育課程を編成し、実施する。	【3】	達成している	2.00	【3】
	中期計画1-1-6-1 スポーツ・健康に関する事業や研究プロジェクト等を通しての国際的な貢献や大学体育及び大学スポーツの教育研究を先導できる人材を養成するために、筑波大学等と連携し、修士課程及び3年制博士課程により編成される共同専攻を平成28年度に設置する。また、共同専攻や連携大学院の実績及び外部評価結果に基づき、学際的及び実践的な大学院教育の充実を図るために、教育課程の不断の見直しを行う。	【2】	実施している		【2】
	小項目1-1-7 【大学院課程】 大学院教育の「可視化」を進め、多様なキャリアパスを確立する。	【3】	達成している	2.00	【3】
	中期計画1-1-7-1 産業界や地域社会等が大学院教育に対する認識を深め、学生が将来のキャリアパスを描くことができるような情報発信や支援プログラムを整備し、平成30年度までに実施する。	【2】	実施している		【2】
	中項目1-2 教育の実施体制等に関する目標	【3】	達成している	3.00	【3】
	小項目1-2-1 全学的な教学マネジメントを確立する。	【3】	達成している	2.00	【3】
	中期計画1-2-1-1 教育企画・評価室が中心となり、学生の学修行動・授業科目の理解度・満足度の把握、学習到達度評価(GPA等を含む)、教養教育や専門教育の成果の可視化評価(ルーブリック)を手がかりに、教育プログラムの改善につながる全学的な教学の改革サイクルを確立する。	【2】	実施している		【2】
	小項目1-2-2 学生の主体的な学修を確立するため、教育環境を整備する。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画1-2-2-1 アクティブ・ラーニング等や学内における学生の主体的な学修・協働学習を支援する環境の整備を行う。	【2】	実施している		【2】	
中期計画1-2-2-2 教育企画・評価室が中心となり、学修成果の可視化等に関わる情報収集を行い、教学改善が図れる教学IR機能を強化するための体制を整備する。	【2】	実施している		【2】	

鹿屋体育大学

中期目標(大項目)		判定		下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考)4年目終了時評価の判定
中期目標(中項目)					
中期目標(小項目)					
中期計画					
	小項目1-2-3 学生の主体的な学修を確立するため、教員の教育能力及び指導能力等を向上させる。	【3】	達成している	2.00	【3】
	中期計画1-2-3-1 教員の教育・指導技術等に関する評価システムを構築するとともに、優れた教員を顕彰する制度を平成30年度までに確立する。	【2】	実施している		【2】
	中期計画1-2-3-2 アクティブ・ラーニング等の学生の主体的な学修を確立するための認識共有、授業方法の改善、授業準備に向けて、教員に対する研修セミナー等を含むファカルティ・ディベロップメント(FD)事業を推進する。	【2】	実施している		【2】
	小項目1-2-4 連携大学院を含め、各教員の役割分担と連携体制を明確にし、有機的・組織的な大学院教育・研究体制を確立する。	【3】	達成している	2.00	【3】
	中期計画1-2-4-1 各教員の教育・研究指導等のワークロードを適切に評価するとともに、学部教育から大学院教育まで一貫した教育課程の編成を行うために、大学院における教育研究体制の再編を行う。また、教員の資質やグローバル化に対する教育・研究力の向上を図るため、大学院教育に携わる教員の研修参加を積極的に支援する。	【2】	実施している		【2】
	中項目1-3 学生への支援に関する目標		【3】	達成している	3.00
	小項目1-3-1 キャリア支援も含め、学習支援に対する学生のニーズを把握し、支援体制を総合的に整備する。	【3】	達成している	2.00	【3】
	中期計画1-3-1-1 学習支援やキャリア支援では、キャリアカウンセラー等の専門のスタッフの常駐や大学院生・学部上級生によるサポート体制を平成30年度までに確立する。	【2】	実施している		【2】
	小項目1-3-2 学生自身が、心身ともに健全で安全な学生生活を送ることができる良好な修学環境を整備する。	【3】	達成している	2.33	【3】
	中期計画1-3-2-1 学生が抱える多様な問題に適切かつ迅速に対応できるように、学生相談支援室を中心として、関係する教職員・組織との情報の共有化を推進し、学内外の専門家・機関との連携を強化するなど、迅速な解決に向けて有効に対応できる学生相談体制を構築する。	【2】	実施している		【2】
	中期計画1-3-2-2 学生生活実態調査の結果、学内設置の意見箱に寄せられた意見・要望のほか、学生と職員との意見交換会等により学生の多様なニーズを把握し、快適かつ安全な修学環境を確保するとともに、第2期に実施した授業料・入学科免除等の実績等を踏まえ、経済的に困窮している学生への給付的支援を拡充させる。	【2】	実施している		【2】
	中期計画1-3-2-3 競技力向上のために課外活動に対して積極的な支援を行う。特にオリンピック(平成28年リオデジャネイロ大会・平成32年東京大会)をはじめとする国際大会出場に向けた選手に対して、活動に必要な経費(国際大会出場に係る移動旅費や海外派遣に係る経費等)を支援する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値※	(参考)4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)					
中期目標(小項目)					
中期計画					
中項目1-4 入学者選抜に関する目標		【3】	達成している	3.00	【3】
小項目1-4-1 大学入学者選抜改革に対応し、入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)を点検し、入学希望者の能力・意欲・適性等に関し、多面的・総合的な評価を行えるようにする。		【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画1-4-1-1 ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに対応できるように、追跡調査を基にアドミッション・ポリシーの再点検を行い、入学者選抜に係る具体的な評価方法を明確に示す。		【2】	実施している		【2】
中期計画1-4-1-2 入学者選抜において、理論と実践とを連結する能力を有し、かつ人間的な魅力に満ちた指導者になり得る人材を養成するため、多面的・総合的な評価を行える選抜方法を確立する。		【2】	実施している		【2】
大項目2 研究に関する目標		【4】	上回る成果が得られている	3.75 うち現況分析結果加算点 0.25	【4】
中項目2-1 研究水準及び研究の成果等に関する目標		【4】	上回る成果が得られている	4.00	【4】
小項目2-1-1 体育・スポーツ・武道及び健康に関する独創的、先端的、総合的な学術研究を進め、学際領域における実践的な研究を推進する。		【4】	優れた実績を上げている	2.50	【4】
中期計画2-1-1-1(◆) グローバルなスポーツ研究イノベーション拠点の形成を目指して、スポーツパフォーマンス研究センターを活用し、スポーツ医科学・情報工学分野と連携・融合したさまざまな研究プロジェクトを実施する。		【2】	実施している		【2】
中期計画2-1-1-2(★) トップアスリートの育成・強化を目的とする、Top Athlete Support System(TASS)プロジェクト等を通じて、学生の競技力向上に直接寄与する研究を推進すると同時に、その研究成果を広く社会へフィードバックする。		【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画2-1-1-3(★)(◆) 総合型地域スポーツクラブをはじめとする地域スポーツの多様なプラットフォームにおいて、健康の維持増進を目指した様々なスポーツ活動等に関する支援を行う。また、地域における健康の維持増進、生活習慣病予防等に関する研究をPromotion of Active Life Style(PALS)プロジェクト等により実施するとともに、地方自治体等と連携して普及に努めてきた貯筋運動を国内だけでなく、海外で実施するグローバル貯筋研究プロジェクトとして推進する。		【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画2-1-1-4 実践的活動による検証も踏まえ、子どもから中高年者のスポーツによる健康づくりの原理を明らかにし、人々のライフステージや体力、生活環境に応じた運動処方を開発する。		【2】	実施している		【2】
中項目2-2 研究実施体制等に関する目標		【3】	達成している	3.00	【3】
小項目2-2-1 研究活動の質の向上と活性化のための体制を整備する。		【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画2-2-1-1 学長のリーダーシップの下、最先端のスポーツ科学を駆使した教育研究及びスポーツパフォーマンス研究を実施するための研究者の戦略的人員配置を実施し、学内の共同研究体制を強化する。		【2】	実施している		【2】

鹿屋体育大学

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値※	(参考)4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)					
中期目標(小項目)					
中期計画					
大項目3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標		【3】	達成している	3.00	【3】
		なし	—	—	なし
小項目3-1-1 地域への多様な学習機会の提供等により、生涯学習の普及や地域の活性化に貢献する。		【3】	達成している	2.50	【3】
中期計画3-1-1-1(★) 大学の教育研究資源を活用し、地域の課題・ニーズに対応した公開講座等を年間15講座開設するなど、大学開放事業に発展的に取り組む。		【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画3-1-1-2 大学を基盤とする総合型地域スポーツクラブ(NIFSスポーツクラブ)をはじめ、ジュニアの育成など地域のニーズを踏まえた活動を推進し、地域スポーツの振興に寄与するために、施設使用及び指導者派遣等について、継続的に支援する。		【2】	実施している		【2】
小項目3-1-2 産学官連携等の事業を積極的に展開し、地域産業の活性化に貢献する。また、地方創生に繋がる科学技術イノベーションを創出する仕組みを構築する。		【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画3-1-2-1 地方自治体や企業等との共同研究・研究交流等を通じて、知的財産を創出し、活用する。また、地域社会において産学官での受託事業等における連携を活用し、地域発イノベーションの創出を双方向で取り組む。		【2】	実施している		【2】
小項目3-1-3 生涯スポーツの普及・振興、人々のアクティブライフスタイルの形成及び競技力の向上等に寄与するため、体育学に関する研究成果を社会へ還元する。		【3】	達成している	3.00	【3】
中期計画3-1-3-1(★) 国民の健康や体力づくり、スポーツ実践・文化の発展に寄与する研究プロジェクトを設置して組織的に取り組み、その研究成果を国民の健康増進や競技力向上のために情報発信する。		【3】	優れた実績を上げている		【3】
大項目4 グローバル化に関する目標		【3】	達成している	3.00	【3】
		なし	—	—	なし
小項目4-1-1 国際交流や連携事業を通して大学のグローバル化を推進し、グローバルに活躍できる人材の養成を行う。		【3】	達成している	2.33	【3】
中期計画4-1-1-1(※) 国際交流協定の締結校数を10%拡充するとともに、外国人研究者及び留学生の受入れを20%拡充する。		【2】	実施している		【3】
中期計画4-1-1-2(★)(◆) 大学のグローバル化に向けた教育研究を発展的に取り組むため、文部科学省補助事業である国際スポーツ・アカデミー形成支援事業などを活用し、主にアジアの若手指導者や研究者を育成するとともに、教職員及び学生のグローバル化に繋がる環境を整備する。		【3】	優れた実績を上げている		【3】

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値※	(参考)4年目終了時評価の判定
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
	中期計画4-1-1-3(★) 2020年開催の「東京オリンピック・パラリンピック」に向けて、関係機関と連携し、競技スポーツにおける指導者等の育成及び研究活動に積極的に取り組む中で、スポーツ界でグローバルに活躍できる人材を養成する。	【2】	実施している	【2】

※ 中期計画に表示されている記号が示す内容は、それぞれ以下のとおり。

(★):「個性の伸長に向けた取組」に特に関連する中期計画(「法人の特徴」参照)

(◆):文部科学省国立大学法人評価委員会に承認された「戦略的かつ意欲的な目標・計画」

(※):新型コロナウイルス感染症による影響を特に考慮して分析・判定した中期計画

※ 「下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値」のうち、大項目「教育」「研究」の数値については、中項目の判定に使用した数値をそのまま大項目ごとに平均して算出し、その上で4年目終了時に実施した学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を行っている。

【教育】 達成状況評価

現況分析:「教育」

$$\left(\text{当該法人における大項目「教育に関する目標」の中項目の平均値} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{l} \text{当該法人における} \\ \text{(Ⅰ 教育活動の状況)、} \\ \text{(Ⅱ 教育成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

【研究】 達成状況評価

現況分析:「研究」

$$\left(\text{当該法人における大項目「研究に関する目標」の中項目の平均値} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{l} \text{当該法人における} \\ \text{(Ⅰ 研究活動の状況)、} \\ \text{(Ⅱ 研究成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

注1 現況分析は4段階判定となっており、【2】判定(相応の質にある)が基準となる判定のため、現況分析の教育または研究の全判定結果の平均値が2を上回る場合は加算、下回る場合は減算となる。

注2 現況分析結果の加算・減算に当たっては、達成状況の評価結果であることを考慮し、係数「0.5」を設定する。

なお、加算・減算後の数値は小数点第3位を切り捨て処理しているため、現況分析結果加算点と教育または研究に関する大項目における判定の平均値の合算値が一致しないことがある。